

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(三大石油会社の業績比較:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/ExxonShellBp.html>)

(石油:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/oil.html>)

マイライブラリー:0258

(注)本稿は 2013 年 3 月 25 日、26 日の 2 回にわたり「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.3.28
前田 高行

三大国際石油企業 2012 年度業績速報シリーズ:BP

(注)詳細は下記同社 HP 参照。

<http://www.bp.com/extendedgenericarticle.do?categoryId=2012968&contentId=7083528>

1. 2012 年の売上・利益・投資及び生産量

(1)売上高

BP の 2012 年 1-12 月の売上高は 370,866 百万ドルであり、前年度の売上 375,517 百万ドルに対し 1.2%の減収であった。後述するように同社の石油・ガスの生産量は対前年比で 3.6%減であったが、売上が微減にとどまったのは石油価格が高値を維持したためである。

(2)利益・損失

BP の 2012 年 1-12 月の利益は 11,582 百万ドルであり、前年比マイナス 22.8%減であった。BP の損益は 2010 年のメキシコ湾原油漏出事故以来不安定な状況を呈している。部門別で見ると上流部門の利益は 258 億ドル(ロシア TNK-BP 社を含む)、下流部門は 28 億ドルの合計 287 億ドルであり、Shell の利益 266 億ドル(前章参照)を上回っているが、メキシコ湾事故による 50 億ドルを含め巨額の損失を計上したため、最終利益は Shell の半分以下に留まっている。BP はメキシコ湾事故の後遺症が尾を引いており、その他ロシアの合弁企業 TNK-BP の内紛を抱え、三大メジャーの中では先発していたロシア事業において ExxonMobil に先を越されるなど経営ミスが続いている。また最近ではアルジェリアの天然ガスプラントが国際テロ組織に襲撃される事件も受けている。同社の今後の利益見通しには不透明な要素が少なくない。

(3)設備・探鉱投資

2012 年度の投資総額は 24,342 百万ドルであり、前年に比べ 23%の減少である。投資を上流部門、下流部門およびその他部門に分けると、上流部門には全体の 73%を占める 17,859 百万ドルが配分されている。下流部門は 5,048 百万ドル(全体の 21%)であり、その他部門は 1,435 百万ドル(同 6%)であった。

(4)石油・天然ガスの生産量

2012年の生産量は石油が一日当たり平均206万バレル(ロシア TNK-BP の88万バレルを含む。以下 B/D)であり、天然ガスは日産74億立方フィート(以下億 cfd、TNK-BP8億cfdを含む)である。天然ガスを石油に換算し石油と合計した場合は333万 B/D に達する。

石油生産量を地域別にみると、最も多いのはロシアの88万 B/D であり、続いて米国が39万 B/D、欧州11万 B/D、その他地域68万 B/D(詳細不明)である。BP は石油生産の4割をロシアに依存しており ExxonMobil, Shell に見られない特色である。一方天然ガスについては米国が全体の22%(17億 cfd)を占めている。

2. 2008～2012年の業績推移

(図 <http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/2-D-4-93eBp.pdf> 参照)

2008年から2012年までの過去5年間のBPの売上、利益、設備投資及び生産量は以下の通りであった。

(1) 売上高

2008年に3,611億ドルであったBPの売上は原油価格が急落したため2009年には34%減の2,393億ドルに減少した。その後2010年は2,971億ドルに回復、2011年には過去5年間で最高の3,755億ドルに達し、2012年もほぼ横ばいの3,709億ドルであった。

後述するように生産量は2008年から2009年にかけて4.2%増加した後は毎年減少を続けており、売上高の増減と全く逆の様相を示している。つまり売上高の増減はひとえに石油価格の急騰と急落によるものであり、売上高と生産量には相関関係が無いのである。

(2) 利益

2008年に212億ドルの利益を計上したBPは2009年には166億ドルにとどまった。この額はShell(125億ドル)よりも多く、ExxonMobil(193億ドル)に比べ遜色がなかった。しかし2010年以降の同社の損益は不安定な状況を示している。即ち2010年はメキシコ湾事故の影響により37億ドルの赤字となり、翌2011年は原油価格の高騰により一転して史上最高の257億ドルを計上した。しかし2012年はメキシコ湾事故に関する米国政府との補償問題が決着した結果、改めて事故関連の損失50億ドルを計上したことにより同年の利益は前年比23%減の116億ドルとなった。メキシコ湾事故の民事訴訟は未だ最終決着しておらず今後も同社の業績の足を引っ張る可能性が残っている。

(3) 設備・探鉱投資額

同社の投資額は2008年307億ドル、2009年203億ドル、2010年230億ドル、2011年315億ドル、2012年243億ドルであった。同社は過去5年間、毎年利益額を上回る投資を続けており、メキシコ湾事故で巨額の損失を計上した2010年も高い投資水準を維持し、2011年及び2012年は当年度利益を大幅に上回る投資を行っている。但し次項に述べるごとく生産量は2009年をピークに毎年減少しており短期的には投資の効果が見られない。

(4) 生産量(石油及び天然ガスの合計生産量)

2008年に384万 B/D であった生産量は2009年には400万 B/D に達した。しかし翌2010年には382万 B/D に減少、その後2011年345万 B/D、2012年333万 B/D に減少、BP は生産の低落

傾向に歯止めがかからない状態である。

(BP 編 完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp